

イースター（復活祭）のおはなし (Easter!)

橋原学園 ALT : スティーヴン・ウダード

前回の記事でお話しした「パンケーキ・デイ」と四旬節が終わると、「イースター（復活祭）」がやってきます。興味深いことに、イースターに限らず、春のこの時期には、他の宗教でもいろいろな行事が見られます。例えばユダヤ教では「過ぎ越しの祭り」、イスラム教では「ラマダン（断食月）」が行われたりするのですが、僕としてはやはり、イースターが一番馴染みの深い宗教行事です。

イースターは「復活祭」というその名の通り、ローマ帝国の兵士たちによって処刑された3日後に、イエス・キリストが復活した、という奇跡を祝う、キリスト教のお祭りです。英語では「Easter」と呼ばれるこの単語の起源については諸説ありますが、「何か新しいもの」を意味する言葉だったのではないかと、という点ではおおむね一致しているようです。

イースターの祝い方はいろいろですが、宗教的なものと、季節の節目としての位置づけとの、2つに大別できるでしょう。信仰の篤い人たちは、前回もお話しした四旬節の期間中の食事制限を守った後、イースターの直前に来る日曜日から、イースターのお祝いを正式に始めます。この日曜日は、特に「Palm Sunday（棕櫚、しゅろの日曜日）」と呼ばれています。エルサレムに到着したイエス・キリストを、彼につき従った人々が棕櫚の枝を道に敷いて迎え、祝ったという、聖書の故事に由来します。



チョコレートエッグは、イギリスではイースター定番のお菓子です！

イースター・エッグや、卵を特別に飾りつけたりといった祝いの方が、みなさんにはおなじみかもしれません。卵を使ったこの祝い方は、キリスト教が広まる以前から行われていた風習が、イースターに組み込まれていったという起源をもちます。古来、卵は豊穡の象徴でしたし、同時にイエス・キリストが復活した（再生した）故事と、イメージがぴったり重なったのでしょう。人々が食べる料理にさえ、古くからの慣習と、宗教的な意味合いが込められています。伝統的なイースター料理は、羊の肉を中心に組み立てられています……ユダヤ教では、羊は神への捧げものとしてよく使われた動物でした。成立の過程で、キリスト教はそうした伝統を受け継いでいったのです。

宗教的な理由から、あるいは季節の節目として、多くの人々がイースターを祝います。理由はこのようにいろいろですが、イースターが新しい生命と、希望を祝う1日であることに変わりはありません。

(日本語訳：町 ALT 森竹弘喜)